

## 総括研究報告書

1. 研究開発課題名：小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発
2. 研究開発代表者： 原 純一（地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター）
3. 研究開発の成果

わが国ではこれまで集学的な小児脳腫瘍の診療体制の整備が不十分であり、診療の質は様々で救える命が必ずしも救えていないのが現状である。このような状況に対し、患者団体などからも質の高い診療体制の整備を求める声が上がっている。本研究では、このような要望に応えるためにも、全国を包含する臨床研究グループを立ち上げて、わが国での小児脳腫瘍の診療・治療開発基盤を整備すると同時に治療開発を行うことで、わが国の小児脳腫瘍患者の予後と QOL を改善することを目的として実施している。今年度は以下の研究を実施した。

### A. 介入試験

- a. 髄芽腫に対する新リスク分類を用いた集学的治療のパイロット試験（症例登録継続中）
- b. 非定型奇形腫様/ラブドイド腫瘍(AT/RT)に対する髄注併用化学療法と遅延局所放射線治療のパイロット試験（症例登録継続中）
- c. 上衣腫を対象とした標準的治療法の第 II 相臨床試験（計画書の JCCG 中央審査中）

### B. 再発脳腫瘍の調査研究

「小児脳腫瘍（髄芽腫・胚細胞腫）の再発理由および再発後予後に関する臨床的要因を検討する後方視的調査研究」は研究代表者施設 IRB 承認後、脳腫瘍委員会参加施設 84 施設に送付し、3 月末を締め切りとした。胚細胞腫 18 例、髄芽腫 24 例が収集され、現在、さらに回収中。

### C. 希少脳腫瘍の調査研究

「稀少小児脳腫瘍（PNET・松果体芽腫・上衣腫・脳幹グリオーマ）の予後に関する臨床的要因を検討する後方視的調査研究」は研究代表者施設 IRB 承認後、脳腫瘍委員会参加施設 84 施設に送付し、3 月末を締め切りとした。上衣腫 44 例、松果体芽腫 11 例、CNS-PNET 23 例、脳幹部グリオーマ 61 例が収集され、現在、さらに回収中。

### D. 前方視的観察研究：小児固形腫瘍観察研究

これまで運用されてきた同研究を BBJ への検体供与をおこなうために計画書を改正した。脳腫瘍委員会参加 84 施設に新計画書の施設 IRB 承認を得るよう促しを行った。

### E. 中央病理診断と遺伝子解析、検体保存システムの確立と運用

成育医療研究センターの検体センターから群馬大学病理で中央病理診断を行うと同時に、大阪医療センターと国立がん研究センター研究所で分子診断を行った。

### F. バイオマーカー研究：胚細胞腫における腫瘍マーカーとしての PLAP の意義の検討

胚細胞腫の腫瘍マーカーとしての PLAP の有用性を検討するための計画書を完成し、脳腫瘍委員会参加 84 施設に施設 IRB の承認を得るよう促しを行った。

### G. NCCV ペプチドカクテルワクチン臨床試験（症例登録継続中）